

会 議 録

| | | | |
|---------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 会議の名称 | 第4回小金井市保育計画策定委員会 | | |
| 事務局 | 子ども家庭部保育課 | | |
| 開催日時 | 令和元年6月12日(水) 19時から21時15分まで | | |
| 開催場所 | 小金井市役所第二庁舎8階801会議室 | | |
| 出席者 | 委員 | 米原 立将 委員長 長汐 道枝 副委員長 福元 真由美 委員 茂森 俊介 委員 南雲 明野 委員 真木 千壽子 委員 吉岡 博之 委員 | 八下田 友恵 委員 長澤 麻紀 委員 飯塚 絵美 委員 井戸下 望 委員 竹澤 千穂 委員 |
| | 事務局 | 子ども家庭部長 大澤 秀典 保育政策担当課長 平岡 良一 保育課長 三浦 真 松本 俊介 | くりのみ保育園園長 前島美和 わかたけ保育園園長 杉山久子 小金井保育園園長 小方 久美 さくら保育園園長 柴田 桂子 けやき保育園園長 池田由美子 |
| 欠席者 | 大越 郁子 委員 | | |
| 傍聴の可否 | 可 ・ 一部不可 ・ 不可 | | |
| 傍聴者数 | 13人 | | |
| 会議次第 | 1 開会 2 議題 (1) 会議録の確定 (2) 「小金井の保育の目指すもの・大切にしたいこと」 (3) その他今後のスケジュール | | |
| 発言内容・ 発言者名(主な 発言要旨) | 別紙のとおり | | |
| 配布資料 | 次第 資料17 「小金井の保育の目指すもの・大切にしたいこと」キーワード一覧表 資料17-2 「小金井の保育の目指すもの・大切にしたいこと」 グループ別模造紙イメージ図 資料18 「小金井の保育の目指すもの・大切にしたいこと」キーワード階層分け表 資料19 小金井市立保育園の保育内容(平成31年3月改定版) 資料20 小金井市保育の質のガイドライン・保育所等への簡易アンケート 設問4 「小金井市らしい保育の特色として大切にしたいこと」回答速報 | | |
| その他 | | | |

令和元年6月12日

開 会

○米原委員長　それでは、ただいまから、第4回小金井市保育計画策定委員会の会議を開会いたします。

はじめに会議録の確定を行います。前回会議録につきましては事前に事務局より皆さまに校正をお願いしておりました。期限まで訂正等の申し出がありませんでしたので、先に皆さまの方へ校正のためにお送りしたものをもちまして確定させていただきます。

宜しいでしょうか。

○米原委員長　はい、ご異議なしと認め、これで前回会議録を確定いたします。

次に、議題の(2)、「小金井の保育の目指すもの・大切にしたいこと」についてを議題にします。こちらについては前回会議においてグループワークを行い、グループごとにキーワードを付箋に書き出していただきました。今回はこのキーワードを理念として取りまとめていくということになりますが、事務局にて用意していただいた資料がありますので、まずは事務局より説明をお願い致します。

○保育政策担当課長　はい、議題(2)の「小金井の保育の目指すもの・大切にしたいこと」においてお使いいただく資料といたしまして、新たに資料の17、17-2、資料18、及び資料20をご用意させていただきました。

まず、資料17ですが、こちらは前回の会議の中で皆さまに出していただきました、「小金井の保育の目指すもの・大切にしたいこと」のキーワードをグループ毎に一枚にまとめたものでございます。付箋を貼る際に、似た考えのものを近くにまとめていただいていたかと思っておりますので、模造紙の上で、近くに貼ってあったものをひと塊の表に現したものが資料17になります。

次に資料17-2につきましては、実際に模造紙に貼り付けていただいたものを、ビジュアル化したものです。

次に資料18でございますが、こちらは皆さまに出していただいたキーワードを事務局の方で三つの塊に分けさせてもらったものです。一番上が理念・概念に関わるキーワード群、二番目としましては理念・概念を補強するキーワード群、三番目としまして理念・キーワードを達成するための具体的な取り組み等に関するキーワード群、こちらの三つに分けさせていただいたものをA3の参考資料として、作らせていただきました。それぞれの中で、内容が近いものについては併せてカテゴリー分けをさせていただいた資料でございます。これら三つの群とカテゴリーの分類方法については、事務局の方で、例えば、というような趣旨も含めて作成させていただいた、謂わばたたき台です。そういった趣旨で本議題の議論の材料としてお使いいただければと思います。

最後に資料20につきましては、保育園向けに実施しましたアンケートの中で、「小金井市らしい保育の特色として大切にしたいこと」についての質問を設けておりました、こちらの回答結果について取りまとめたものでございます。これらを参考に本日はご議論をいただければと思います。

説明は以上でございます、よろしくお願いたします。

○米原委員長 はい、事務局より資料の説明をいただきました。

本日のこの議題を進めるにあたってのたたき台という趣旨で、この資料18というのを作成いただいています。本日の会議では主にこの資料18を中心として小金井の保育全体の理念にあたります、「小金井の保育の目指すもの・大切にしたいこと」について皆さまからご意見をいただきながら、ある程度まとめていければと思います。

資料20、こちらが本日配布となりましたので、この資料20というのは簡易アンケートの設問4で「小金井市らしい保育の特色として大切にしたいこと」の回答の速報となりますが、こちらをお読みいただく時間を取りたいと思います。今から5分程度取らせていただいてその間にお読みいただければと思います。

(休憩)

それでは再開します。先程も申し上げましたように、資料18で皆さまに出していただいたキーワード、これは事務局が例として階層付けをしてくれました。これらを基に、「小金井の保育の目指すもの・大切にしたいこと」について、できれば文章化の案のようなもの、そこまでいなくてもある程度まとめるというところまで進めていければと考えています。前回の会議で出し切れなかったキーワードですとか、このカテゴリー分けに対するご意見ですとか、またこれは別のカテゴリーに属するのではないかと、とかも含めて率直なご意見をいただければと思います。いかがでしょうか。

はい、まずは皆さまがお出しいただいたものをまとめていくという作業が必要で、その一つ材料を事務局が用意してくれています。これをたたき台というかきっかけにして、こんな言葉が理念に盛り込んでいけるのではないかと、といった率直な意見を出していただきながら文章につながるような形にもっていきたいなと思います。前回グループワークをして、とても率直にご意見出していただけたように今回も委員の全員からのご意見をいただけたらいいと考えております。ご意見いただけますか。

○長汐副委員長 口火を切りましょう、

この表を見た時に思ったのですが、皆さまやはりAもBもCも似た内容がはいっているかなと。この辺をまとめてみたらどうなのかな、と。例えばA-11で子どもの権利条約というのがありますよね、権利条約の中身を見てみると、C-2の子どもの幸福と権利保障であるとか、C-3の子どもの最善の利益だとか、こういうのはみな子どもの権利条約の中に含まれている理念です。こういうのがいっぱいあると整理しにくいので、一緒してみる。ということをしつやってみてはどうでし

ようか。今のでいうと子どもの権利条約、子ども幸福と権利保障、子どもの最善の利益、子どもの人権、この辺りは一つのグループとして。他の方にも別のところを言っていただければ、一緒になれるかなと思います。

○米原委員長 吉岡さん、お願いします。

○吉岡委員 ざっと、いろいろなアンケートの内容とか読ませていただいて、確かに、理念として子どもの権利を守る、というのはありますが、子どもを守る場所というのが保育園としたら、そこがやっぱり安心な環境でなければいけない。そのなかには保護者も大切にされる、という部分があるように思う。保護者が大切にされるという環境を作るためにはというと、保育士さん達の数が少ないという、とても大変な状況がいろいろアンケートでも読み取れると思います。ですから、ここっで凄く関係性が深くて、やはり子どもの安全のためにも、いろんな支援のためにも、保育士の人数は重要なのですけども、その余裕があるからこそ、親御さんにも心配りができたらいいとか、本来のニーズが分かってくる、という部分につながったりしていくのではないかなと思う。保育士の確保は大変ですが、子どもを主体におくにしても、周りの環境というものを整備していくことがあってはじめてまとまっていくのではないかな、と考えます。

○米原委員長 ありがとうございます。

子ども主体、と、それを支える人的環境で、安全・安心を確保しながら。という考え方でした。他はいかがでしょうか。

○八下田委員 今の吉岡委員の意見と同様ですが、小金井市で子どもの権利に関する条例ができて丁度10年で、これをベースにして保育計画を作っていく考え方が良い。保育とは保護者がいて、保育者がいて、子どもがいて、という関係なので、子どもが最初（大元）にあって、保育計画というところで私たちは保護者や保育者にも目を向けたものという書き出しや頭出しがいいんじゃないかなと思います。いかがでしょうか。

○米原委員長 はい、ありがとうございます。

○井戸下委員 まとまりのない話になるかもしれませんが、この事務局が作成して下さったA3階層分け表は縦に並んでいるということもあり、どちらかというと大事なものがまずあって、その下にピラミッド型に広がるようなイメージを持ちますが、今のお二人の話を聞いていて、こういうピラミッド型というよりは、真ん中に子どもがいて、その周りに保育者と保護者の方がいて、その外側に環境がある、そういうイメージが持てるような文言になればいいのかな、と思いました。

○米原委員長 はい、ありがとうございます。今のお話どうでしょうか、イメージを共有できるのではないのでしょうか。

○真木委員 前回も出たのですが、小金井市の保育を支えてきたものは、公立（の保育園）が主になって支えてきたとあってよい。資料19にある小金井市立保育園の保育内容がありますが、それを見させていただいてとても素敵に作り上げているというか、積み重ねが感じられる内容になっています。なので、子どもを中心に、という考え方は皆さん同じだと思いますから、今まで積み重ねてきた小金井の保育

内容とはどういうものだったか、というのを公立の先生方にお話いただいて、と思いますが、いかがでしょうか。

○米原委員長　もちろん公立もそうだと思いますが、委員の茂森さん、公立も民間もどちらも市の保育として尽力されてきているはずですので、公立は資料もあるので読めますけども、民間園の取り組みに関してはお話を伺っていききたいな、と思いますので、まずそちらでよろしいかなと。その中で公立とで重なるところがありましたら、それこそがまさにと思いますので、先に委員から伺ってもよろしいでしょうか。

○真木委員　そういうことじゃあないんです。今まで小金井市で積み重ねてきた保育というものがあると思います。それがどういうものかというのを公立の先生方にお話いただいて、それプラスαで続けて積み重ねができたらいいいという考え方です。

○米原委員長　なるほど、分かりました、私のイメージでは積み重ねてきたのは公立も私立も同じで、もちろん認証園も制度ができて15年も経ちますので、先ず委員の中に入っている先生からお話を聞かせて頂いて、という受け止め方をしていました。でも結構です、公立の先生方に話を伺うという形でも。

○真木委員　資料も出ていますので、先に。

前回会議で、今まで積み重ねてきたものをお話いただきましょう、ということだったと思いますので。何も無いところとか、文言がどうのではなくて、今までこの小金井市を支えてきた公立園のお話を伺って、それからプラスαで、ここをもっとこうすれば、素敵な、公立私立関係なく伸びていくのではないかと思います。そういう意見です。

○米原委員長　はい、分かりました。私のお伝えしていることも汲み取った上で、そういう意見をいただいていますので、小金井市立保育園の保育内容について、もちろん資料としてお出しいただいていますので、それについてこれがどのように使われているのかということも含めて、ご説明をいただいでよろしいでしょうか。

○保育政策担当課長　使い方、という点についてだけ先にご報告させていただきます。これまでも公立保育園の保育内容については、ある程度まとまったものというのはありませんでしたが、今回の指針の改定を踏まえて、改めて見える化したというか、明文化したというのがこちらの保育内容の本筋であります。形になったのが今年の3月という状況もあるので、園でどういう活用の仕方をしていくかということについては5園で、今現在もいろいろと検討している状況です。まずは改めて自分たちが今までやってきたことで大事にしたいことについてまとめ上げたものです。その共有化を職員の中で図っているというのが中心となっています。今後の活用の仕方についても、より良い保育のために話し合いを継続している、といった現状です。中にも書いてあることですが、特に公立の保育として求めていること辺りをどなたかお話をいただけるとありがたいです。

○小方小金井保育園園長　3ページの1、一番頭出しのところにも書いてありますが、保育園は0歳で入園して、一番長い子ですと6年間過ごすわけですが、この6年間というのは生涯にわたって続いていくというところで、一人ひとりの人生の根っこを育

てるところだ、ということが基本になっているかなと思います。子どもの権利条例の前文にもありますように、愛されて、意思を持って表現できて、それができる環境がある、という、そこが基本かな、と思っているのと、保育園でやっている事というのは、残念ながら保育園にいる間、卒園までに答えは出ないのですが、将来に渡って、人生いろんなことがあります、自分の力で乗り越えて、最後まで生き抜いて欲しい。そこが、保育園の願う最終的な目標になりますので、そこを見越した大切な6年間なんだということで、人生の根っことなる部分を強く、太く、しなやかに作ってあげたいなという思いがあります。私たちも三十数年働いていますが、もちろん変わった部分もたくさんありますが、三十年以上前から変わっていないところも沢山あって、そのスタンダードな部分を公立は引き継いできたというのがあります。4ページにもありますけれど、「根っこを育てる」ということを基本にして、保育が一律的になったり、何か特異な事に偏ったりするのではなく、また見栄えとか、結果とかに特化したものではなくて、総合的に展開されるよう、その過程を重視できるように、保育の計画を立てています。一人ひとりの子どもを尊重するという考えを基本にして、昔から、乳児期は担当制と称しまして、まず担当保育士と信頼関係を築き、愛着形成を促していく、安定した日々の繰り返しを大事にしていく、ということや、幼児クラスになってからも、きちんと練習した行事だったり、所謂早期教育だったりすることではなく、毎日の遊びの中から様々な力を獲得していくんだ、という遊びを中心とした生活の展開に重きを置いています。先ほど職員体制の話も出ましたけれど、公立もととても厳しくなっています。ですが、トップダウンにだけはならないように、職員たちが自分たちで考えて、発信していく、行動していく、何を考えて仕事をするかというのを職員たちが考えられるように、5ページの辺りにも少し出ているのですが、各プロジェクトだったり、いろんな担当や係を持って、保育計画の基に業務を進めています。例えば保護者支援プロジェクトだったり、地域支援プロジェクト、安全点検プロジェクト、マンパワープロジェクトというのがある、保育の課題や改善点をそういうところで話し合いながら、職員自らの資質を高めるという努力をしています。

○米原委員長　　いかがでしょうか。

○真木委員　　とてもいいと思います。そうやって積み上げてきたものをまた引き継ぐような形で更に皆でいいものにしていければと思います、ありがとうございます。

○米原委員長　　いま、小方先生よりお話いただきましたが、各園独自の保育理念や方針の基、公立保育園が積み重ねてきたものがあるということでした。では茂森先生はいかがでしょう。

○茂森委員　　うちの保育園では、一番私が好きな言葉に、「仲間と共に元気に遊べる雑草のような子ども」というのがありまして、保護者としてはもし何か災害とか、何かあった場合にどんなことであれ生き残ってほしい、とわが子への願いがあると思う。なのでいろいろ体感とか、生きる力というのか、そういうのを大事にしている、なるべく外で遊ぶようにして伸び伸びと生活するようにしています。また、

子どもの気持ちに寄り添い、という言葉も入っております、ちょっと前までは保育者が主体となってしまって、子どもが保育者についていくような保育をしていた時もあったのですが、やはり子どもが主役となって保育者が援助していく、保育をしたいと心がけております。

○米原委員長

はい、ありがとうございます。それでは南雲先生、いかがでしょうか。

○南雲委員

私が3月の終わりに新規説明会というのを保護者の方たちに行っています。最初に行く全体会というので必ずお話をすることが二つあります。まずは「三つ子の魂百まで」ですよ、ということと、ここの保育園では「器づくり」をしています。ということを行っています。この「器づくり」というのは漠然としてもいけないので、どういうことかというのを説明しています。「器づくり」というのは、この小さなお茶碗だと直ぐにこぼれてしまうが、大きくするとたくさん入りますよね、そういう子どもを作っていきたいのです。ということを行っています。でそれが保育の中で具体的にどういうことなのか、どういうことをして行くのか、ということとその次にします。まず、体づくり、後は子どもが主体的に動ける保育というのを考えて行っています。

体づくり、としては自然の中で遊ぶ、ということが大事で、しょっちゅう学芸大の公園にお邪魔して遊んだりとか、自然がたくさんあるとは言っても私の園の周りというのはそれほど泥だらけになって遊べる場所というのはそんなにないので、園庭をドロドロにして泥んこで転がって遊んだりとか、最初は嫌がってお母さんもキャーと言ってるんですが、そのうち凄くいいですね、とおっしゃってくれます。後は園の中でリトミックといわれていますが、さくらさくらんぼリズムという体幹を鍛えられるリズム遊びを取り入れて行っています。後は体育の免許を持った職員が二人おりますので、器械体操なども行っています。そういうところを中心として体づくりをして、保育目標が3つあるのですが、

- ・挨拶が必ずできるお子さんにしましょう。
- ・健康な体を作っていきましょう。
- ・自分で考えて達成できる子どもにしましょう。

というところを子ども用と保護者用というか大人用に分けて保育園の中に掲げているのです。保育士はこの3つの柱を中心に、もちろん指針がベースなのですが、後は株式会社経営の保育園なので、本社から降りてくるものも含めて保育計画を立てて、保育を行っています。私立の保育園なので、特色も出していこうということで、そういうアピールポイントも保護者の方にお話をしながら、体づくり、器づくりというところがメインで、「三つ子の魂百まで」ですよ、とはどういうことなのかということもお伝えしながら、自然に触れながら、保護者の方とどんな関係を築けば安心して預けていただけるのか、お子さんとの関係はもちろん大事なのですが、保護者との関係がしっかりとできれば、6年間お子さんとの良好な関係というのも築けて、預けてくれるのではないかと考えながら保育を行っています。

それを踏まえた上で、小金井市の保育というところを、どういうところを柱に

して作ってあげばいいのかというところで、保育園としては、たくさんお話をさせていたいただきたいところもありますし、皆さまのご意見をたくさんお伺いしたいと思っています。

○真木委員　　うちは大学の中にある保育園なのですが、大学との連携などいろいろ責務もありまして、学生さんも援助しなければならないとかも。

一つは子どもが子ども時代を子どもらしく過ごせるように、というのがあります。子どものこの時期だからこそできる遊び、泥んこ遊びもそうですが、自然の中で思い切り身体を動かす。で、思いやりとか、愛されているというところから仲間を大切にすること。後は大学との協力関係で連携活動をいろいろやっております。造形遊び、科学遊び、体育遊び、等も。保育アドバイザーもおりますので、保育のアドバイスも受けながら、職員の質の向上を目指しています。近隣のニーズもいろいろありますので、地域に貢献するというのもその中にあります。園長が公民館に出かけて行って、保育サポーターの講座を協力してあげたりとか、いろいろ行っておりますけども、保育園自体に留まっているのではなく、対地域というのも大事にしています。今回、保育計画策定委員に選ばれましたけれど、私でいいのかと思いつつ、日々いろんなお話を伺いながら、学ばせていただいているのですが、個々の保育者の力量育て、質の向上というテーマでは日々悩んでおります。ただそれだけではだめで、園としての力量も向上しなければならないし、保護者を含めての地域全体の力量という部分で今この話し合いをしているのかなと思うのですが、行政もどのような支援をして頂けるのか、支援力の向上というのも注目していかなければならない。それプラス、専門家の米原先生、福元先生とか学識経験者の方々含めて、アドバイスいただきながらこの話が早くまとまっていくといいなと、思っております。

○米原委員長　　どのような支援が必要なのか、どういうことを大切にしていけるのか、ということ、段々はっきりとさせていきたいということで公立の保育園、あとこちらにご参加いただいております民間の保育園、認証保育所の先生方のお話を伺っていますが、私の個人的な感想ですが、公立でこれまで頑張ってきたことと、発言のあった2、3の園で頑張ってきたこととで重なっていることもあるかと思えます。で、いかがでしょうか、この「小金井の保育の目指すもの・大切にしたいこと」というので、他の方いかがでしょうか？

○福元委員　　皆さま方のお話を伺って、どれもほんとに大切に、小金井市が目指している保育に繋がっていくものなのではないかと思って聞いておりました。先ほどの子どもを真ん中にして同心円でデザインしていく発想は素敵だなと思ひまして、子どもを真ん中に置いたときに、どういうふうに目指すべき方向に議論を導いていくのかの話ですけども、公立園の先生方が説明してくれた3ページ、小金井市立保育園の保育のところの3段落目の、子どもが人から大切な存在として受け止められていると感じ、自己を十分に発揮しながら自信を持って安心して生活できるように育てていく、ということが「根っこ」とおっしゃっていたように核になっているのかな、と感じながらお話を伺っていました。そういうふうに育つというこ

とを核にしながらかその周りが、人々とのつながり、でしたっけ？

○八下田委員 私に認識としては真ん中に子どもがいて、その周りに支える人、保育者と保護者の方、その外側に環境というイメージです。

○福元委員 はい、今、話を引き受けるのでしたら、そこに前回の話と今回の事務局のまとめにもありますように、保護者の方とその保育者である先生方と、更には市民との協働の中で、そういうふうにご子どもの育ちを支えていく、ということも考えられるでしょうし、市民というところに行政というのをも含めて捉えていくというふうなそういう文言を書いていくこともできると思います。そしてその周りに環境という話もありましたが、こちらも同3ページの一番下の段落で、子どもたちの意欲や好奇心の目を育み、子ども自らが自分の感情や意思を持ってやりたいことを自分で決められる環境を用意していくことだ。とか、集団の中で友だちと関わりあいながら一人ひとりが実際の経験を通して獲得できることを大切にしてい
く、というような環境との関わりの中で、どういう経験を保育の中で実現していくか、というような文言として考えていけるのではないかと思います。この文言そのまま使うというよりも、またこちらでアレンジしながら、大まかな土台というのは構想できるのではないかと思います。で、その構想の中に、もちろん子どもが人から大切な存在として受け止めてもらえる、とか、自分自身を発揮していくということは小金井市の子どもの権利を背景にあることで、そういったことも文言として入れていけるのではないかと思います。そうした中に、先ほどの私立園さんの、雑草のように生き抜いていく力、子どもがそういうふう生きていくことへの育ちを支えていくことですか、それは「器づくり」にも関連してきますでしょうし、様々な体づくり、いろんな地域のニーズに合わせた経験を要していく、というようなところも包含している考え方になると思います。あと環境というところは、先週もあと今日配布されました資料20にもあるように、小金井市の豊かな自然に触れていく、とありますので、是非理念の中にその文言を入れて身近な自然環境に関して豊かな保育を展開していくようなことが謳われるといいなと思いました。

○米原委員長 ありがとうございます。

もしよろしければ事務局の方でホワイトボード使わせていただいて、例えば同心円状のイメージとか、今おっしゃっていただいたキーワードなどを書いていくと、皆さんも文章化する際にも考えやすくなるのではないかと思いますので、活用していきましょう。概念図といいますか、キーワードを視覚的に確認しながら、それをどのように文章におとしていくのか、そういう方向で考えていきます。

(ホワイトボードに書いたのを見て)

こういうイメージで、更に資料19の小金井市立保育園の保育内容に書かれている、これまでに大事にしてきたこと、今大事にしていることの表現なども参考にしつつ、考えていきます。

○福元委員 子どもの周りに、人のつながりがあって、その周りに環境とか、この環境のと

ころに、子どもの様々な経験というものを含めて話をさせていただきました。これでもいいですし、別に、子どもの周りに環境と実際の保育に直接的な経験があって、それを作っていく保育の先生とか支える保護者の方とか市民、行政と置くこともできるかな、と思ひまして、そういうことも含めて議論させていただければいいなと思ひました。

○米原委員長　多分あんなふうに真ん中に、かなり近いところとか子どもの育ちに環境が大きく関わるというので、例えば、今すっきりとこういった図には出来ないのかもしれないかもしれませんが、こういうやり取りというのを少しずつ上手い感じでまとめられればいいと思うので。例えば保育内容というものがあって、とか子どもの育ちというものがあって、その中に環境とか何とかというものがあって、それを支える保育者だとか保護者や市民という考え方もあるだろうし。ただ、もちろん大事なキーワードというもの、どう繋げて形にしていくのかという事をイメージして進行させていただきたいと思ひますが、どうでしょう、飯塚さんは。

○飯塚委員　先程同心円状にというのがすごくしっくり来るなと思ひながら聞かせていただきました。ただ、前々から話に出ているかと思うのですが、多分こういう場所にいらっしゃる園の関係者の方というのはすごく意識が高い園の方かなと思うのですが、そんな余裕がない園というのがあるわけですよね。そういった園の方にも向けてのガイドラインでもあるわけなので、是非、やはり行政の力添えというか、どういう形になるか分かりませんが、行政からの何らかの支援だったりサポートだったり補助だったり、そういった事もぜひガイドラインに含んでいただきたいなと思ひているところです。

○長澤委員　前回の会議の時に、小金井市としての保育の理念、保育の方針というものが無いというようなお話だったと思うのですが、今日のこの公立園の保育内容の資料の3ページは、「小金井保育施策基本方針」というのが四角で囲んであって、これは小金井市の公立保育園の保育の基本方針であれば、小金井市の基本方針なのかなという印象なのですが、もしこれが保育の方針としてあるのであれば、これにもう少しプラスしていてもいいと思ひますし、この上の理念がないというのであれば、先ほど小方園長がおっしゃったみたいに子どもの権利条例の前文に出ているようなところを踏まえて保育をされているというところで、その前文にあるような公立保育園が今やっているというのは特に民間園でももちろん通用することだと思ひるので、その辺りを理念として盛り込んでいたりとか、30年以上変わらない部分、スタンダードにしている部分というのはもう少し具体的に教えていただくと分かりやすいのかなと思うのですが、その変わらない部分は本当に今後もしかしたら10年、20年経っても変わらないのであれば、それを理念にするべきだと思ひます。理念はやはり時代が変わっても変わらないものを作るべきだと思ひるので、そこを今公立園が実践している部分で、言葉に出来そうところがあれば出して行って、それで例えば挨拶が出来るとか丈夫な体にするとかというのはまた更にその方針の下の保育目標になるのかなと思うので、理念があって方針があって、目標の具体的なところに、例えばその方針に進んでいくために、

小金井市にある環境をこういうふうに使って体を動かします、体を丈夫にしますとか環境の部分が入ってくると思うんですね。具体的なその部分が保育目標に入ってくるのかな。ただ、理念と保育目標との間に保育の方針というのがある、少し理念より具体化されるものだと思うんですね。今ちょっとこの小金井保育施策基本方針というものがどれくらい、ずっと何十年もこの方針があったのか、最近これを作る時に出来たのかは私は分からないので教えていただきたいのですが、プラスアルファ30年以上変わっていない部分でずっとスタンダードだとして守り続けているものというのも参考に聞かせていただきたいなと思います。

○米原委員長 はい、ではお願いできますでしょうか。まず小金井市保育施策基本方針というものがどういうものなのか、そしてどれ位前から大事にされているのか、それから公立保育園がずっと守り続けているものというものと話がありましたが、その具体的な内容についても出していただけるのであれば。

○保育政策担当課長 まず冒頭のところだけ答えてあとは園長先生の方へお願い致します。

今回の小金井市保育施策基本方針ですが、小金井市と書かれていますが基本的に文章の中でご覧いただくとお分かりのように、市立保育園としての統一的部分ということになっていて、小金井市全体の中でということでもとめたものではない、というのが一つあります。実際に文章化させていただいてからまだ5年くらいしか経っていないかなと思っていますが、根底にあったものを一つの文章としてその時期にまとめた、という形で、公立の保育の内容をまとめる上でも大事な言葉ですので、こちらの中に位置づけて書かせていただいたというのがこちらの内容になります。あとは過去の積み上げたところについては園長の方へお願い致します。

○前島くりのみ保育園園長 小金井の保育園の中で、中長期計画を、以前は具体的にはなかったので、中長期の計画を、5年計画を立てるにあたって以前の保育課の方であげてもらった計画になっています。この方針に沿って各園の理念があって、園の目標があって、という形でいます。

この方針に沿っての具体的な保育でいいのですか？

○米原委員長 そうですね、ずっと大事にしてきて積み上げてきて変わらないスタンダードなものがあるというお話だったので、その具体例をいただければ。

○前島くりのみ保育園園長 公立の保育園の中でさっき小方さんがお話したように、子どもが主体的に自分で色々な事を考えて遊びにつなげていくというところで、0歳児クラスから、例えばお部屋のコーナーがあって、いつも同じお部屋で同じ好きなおもちゃが同じ場所に置いてあって、なるべく大人がそこにおいて、お父さんお母さんに代わる大人がいるということで、担当制で保育をさせていただいて、それが常に、子どもはお部屋よ、と来て、「あ、これで遊ぶ！」と自分で決めて好きなおもちゃを持って、好きな場所で好きなお友達と好きな大人と、という保育を就学前まで続けていけるように保育をしています。そのところで、だんだん大きくなっていくにつれて、自分でやりたい事、そこが長く遊べるように、保育の内容も、例えば大きくなってブロックで何か作ると、それをお外に行くとき片付けま

しょう、ではなくて、ここに置いておけるスペースで作っておいて、一週間くらい続けて遊べるように、お友達の中で職員と一緒に取っおいたりとか、そこにお友達が入ってきたりとか、という形で、遊びが継続が出来るような取り組みも環境の中でしています。

保護者の関わりの中では、懇談会をもったり、保護者と個人面談をしたり、保護者のニーズに合わせた保育というものを心がけるように、保護者との連絡帳のやり取りだったり、連携を取りながら保育をしています。

また地域の中では、それぞれの地域柄があると思いますが、くりのみ保育園では西武鉄道が真横に走っているの、西武鉄道の方々との交流があって色々なイベントに来ていただいたり、こちらから参加したり、地域の方の読み聞かせの絵本の日に来ていただいたり、地域に支えられている保育園というのはどこも、福祉施設等の交流をずっと続けていますので、そういう交流はずっと続けていっている公立保育園、私立でも交流されていると思うのですが、継続して保育がされています。

一人一人のお子さんが安心できるように、保護者の方々も安心してお仕事に行っていたりするような保育を心がけています。すみません、答えになっていない気がしますが。

○吉岡委員

今ずっとお話聞いていて、多分3ページの文章の並びがちょっとおかしいのではないかと思うんですね。今四角に囲まれているのは、子育て支援の施策の方針についてだと思えます。ここは。ところが上に書かれているのは、保育の内容、子ども中心だということ、の部分を書かれていて、この線で囲まれているのは、子育て支援の方針なんじゃないかなと思うんですね。ここでこれ分けないと、実は子ども中心と言いながら下は保護者のニーズを中心にしちゃってるので、これは分けて考えないといけないかなと感じました。

○竹澤委員

この3ページに載っているのは小金井市の保育園の保育理念という感じだと思うのですが、これの前に世田谷のガイドラインとかをちょっと見て、私これはやっぱり一番初めにおさえなければいけないんじゃないかなと思っているのは、世田谷は1人ひとりの子どもの最善の利益を第一に考え、保護者とともに保育を通してその福祉に努めます、と書いてあって、やっぱり子どもの最善の利益が一番守られることで、そしてそれは保護者と保育園が足並みを揃えてそれを守っていくってことをまず一番初めに、保護者もややもするって言ったらかわいなのですが、自分の仕事とかを優先にして、長時間保育、預ければいい、あるいは保育園に預けて全て保育園に教育してもらえるものだって思ったりする。ここにいらっしゃるお母さん達とかは全然違うと思うのですが、ややもするとやはり親もその子どもの最善の利益っていうのを忘れかける事もなきにしもあらずだと思うので、そこで、子どもの最善の利益っていうのをまずきちんとおさえ、そのために保護者と保育園が足並みを揃えてそれを守っていきましょうということをまず掲げてから、小金井の保育園でやる理念としては、子どもが生きていく力というのを育てていくという、先ほど福元先生が読んで下さった三段目の辺りを明

記していくということが、流れとしてはいいのではないかなというふうに思います。その同心円の所でちょっと気になるのは、子どもと保護者、保育者とあって、そこに市民が入っているのが私は違和感が。まず保育者と保護者、二つだったらいいのですが、そこにいきなり市民が入るのはちょっと違和感があります。

○吉岡委員

今、先生おっしゃられたように、子どもの最善の利益ということ、例えばその同心円の円を説明する文章として、子どもの最善の利益というように変えて、その下にたくましく人間性豊かな人格を育むための後押しを図、とかね、そんな感じだとなんか全部が繋がるんじゃないのかな、と思ったんですね。で、たくましく人間性豊かな人格を育むための後押しですよ、みんな。子ども中心にとやっていると、市民と今、じゃなくても、当然そういうものも入ってくる。豊かな小金井の自然も入ってきますし、地域性豊かなという部分も全部後押しという部分では、包含できるのかなあと少し思っています。

○米原委員長

子どもが育つ、子どもが主体であること、全ての人々や、それを取り巻く環境が後押ししていくっていうね。

○真木委員

小金井市の公立保育園の指導計画の部分で、ちゃんと「子どもの最善の利益」を守ることを理念とし、とあります、理念としてももう上がってるんですね。それで、それは大事にしなきゃいけない。子どもを真ん中に大事にしなきゃいけない。子どもの権利条約を含めて、子どもの最善の利益をどのように育んでいくか、支援していくか。で、市民というところを地域にしたらいんじゃないですか。市民でこだわりがあるのであれば、地域だともっと市民も含めた、地域との連携という意味ですよ、その辺りはね。

○井戸下委員

さっきの吉岡先生のお話を聞いてハッと思ったところなんです、四角で囲われている基本方針の中の、「サービス」という言葉がちょっと私は気になって、確かに保育サービスとかもそうなのですが、方針とか理念の中に入れる言葉としてはちょっと誤解を招くかなという印象も私自身はあります。あと、真ん中に子どもがいてその周りに保育者と保護者がいてっていうお話をさせていただきましたが、やっぱり子育て支援ももちろん大事なのですが、子育て支援の方に重点を置いた理念になったらいいかな、というふうに私自身は思っていて、今、保護者支援というのもすごく大事な保育園の役割になってきていると思うのですが、世の中の流れが、中心にいるのが子どもじゃなくて、子どもと保護者が真ん中にいて、それを保育者が支えるみたいな感じになってきている印象があって、やっぱり真ん中にいるのは子どもで、保護者と保育者が連携して子どもの育ちを支えていきましょう。というのが理念としてあったらいいかなと思います。

○米原委員長

いかがでしょう？ 子どもの最善の利益と掲げるのは、もうそれは条約でも条例でも指針でも当然なのですが、なんでそれが一つひとつ毎回書かれているかというと、子どもの最善の利益というものを掲げて、それが実は子どものためになっていないという可能性があるから。マスコミをにぎわすような事件等も、子どものためを思ってやったというようなことも当事者から出るわけですので、今井戸さんがおっしゃったように、色々な人が支えるからこそ、独善的にならな

い、子どもの最善の利益というものを、保護者、保育者、地域で一緒に支える、大事にしていくという事というのは、それが子育てに繋がっていくんだ。という考えは、この中でだいぶ共有できているのかなと受け止めています。

○長汐副委員長 もう一ついいですか。先ほどもちょっと保護者が保育を十分にやれていないんじゃないかと、長時間預けてしまってとかいうお話があったんだけど、今の保護者を取り巻く労働環境を見た時に、やっぱり働き方改革とか言われながら、残業を強いられてしまう。そういう事があって、なかなか保護者も自分では一生懸命子どもに関わろうという気持ちはあっても、それを経済的な理由だったり雇用の問題だったりして、それを十分に守られきれないという問題があると思うんですよ。だから、子どもを真ん中に置いて、保育者と保護者が一生懸命やるという、この、保護者を支える環境の中にやっぱり保育者だけじゃなくて、社会の条件というのかな、そういうのが凄く影響しているかなと思うんですよね。この辺をどうやって入れていったらいいのかちょっと分からないんですけど。一生懸命ですよね、一人親の方もその子育てと生活とを負ってるわけでね、どういうふうにそこを入れていってあげたらいいのかな。支援すると言ったところで、保育者だけが支援できる訳ではないですし、市民のお手伝いだって限界がありますよね。大きな社会の問題なのかとも思いますが、なんとかその辺りも入れ込みたいかなというふうに思います。

○南雲委員 大きな理念とか大きなものを決めようとしているところで、現場にいる人間としてついつい細かい事をお話してしまうのですが、今長汐先生がおっしゃったように、お母さん達とってもとっても忙しいんです。通勤にとっても時間がかかる方が、うちの園は特に公務員の方が多いので、本当に大変なんですね。この大変な時期に入園したばかりのお子さんって熱出すんですね、本当にお仕事のままならないお母さん達がたくさんいらして、でも保育園としては、熱が出て真っ赤な顔しているお子さんとか、下痢が止まらないお子さん達をずっと預かるというのは、感染という部分で出来ないの、やっぱり電話をするんです。電話をするんだけど、迎えに来てもらわなければいけないんだけど、病児保育って小金井市おそらくないんですね。病後児保育はあると思うのですが。他の地域で働いたことのある人間としましては、簡単ではないと思います、簡単ではないけれども、病児保育という部分も充実させないと、働くお母さんが安心して保育園に預ける、保育園に預けた子が熱出しちゃった、さあどうしましょう、病児保育に預けたい、けど無い、というところ。

あとは、私山形に住んでたことがあって、山形でファミリーサポートセンターを立ち上げた事があるのですが、そこで最初の協力会員になって、中学校のお母さんのお子さんを生後四か月から預かって、自分の子が二歳だったのですが、そのお子さんに熱が出た、保育園まで迎えに行きます。とにかくお願いだからお願いします、と電話を受ける。直接受けたりすることもあったんですね。多分この小金井市のサポートセンターのシステムでは考えられないかな、と思うのですが。

熱が出た、保育園に私が迎えに行きます、お医者さんに連れて行きます、その後自分のうちで預かってお母さんの帰りを待つとかね。そこまでは必要が、例えば預かる側として、お母さんとしては、母親として必要なかどうかという問題もあるかと思いますが、お仕事が絶対抜けられない状況のお母さんがいる中で必要なところ、それに甘えちゃうお母さんももちろんいますけど、本当に必要なお母さんお父さんにとって、何が大事かなというところをもっと突き詰めて考えていただきたいなと思います、行政にも保育のシステムにも。大きくて細かい話になってしまったのですけれども。

○長汐副委員長 ファミリーサポートの制度というのは、地域によってそんなに違うんですかね？

○南雲委員 今の山形市は分からないですけれども、例えば私がやっていた時は、山形市には私から一報入れたりとか、お母さんから市に一報入れたりとか、本当に今々必要だから私と協力会員と利用会員とのやり取りもアリだったんですね。もちろんそこで一時間幾らっていうお金は発生するんですけれども、だから市には必ず連絡は入れるのですが、そのシステムの柔軟さというのがとても大事なのかなというのと、あとは病児保育が大事かな。あとは保育園に来て下さる看護師さんの充実というの、実際うちの園はいないんです、看護師が。巡回の看護師も月に一回に来てくれるかどうかという状況なので、医学的な知識はほぼないのですが、個人的なことですが病院に勤めていたことがあるっていうだけの知識だけしかないんで、そういうところも充実させていただけると有りがたいなあ、と現場としては思います。

○福元委員 今、色々話が広がってきていますので、もう少し本筋の所を考えていけるといかなと思って発言をさせていただくと、今回この指針というのは、まずは現場の、保育園の先生方と、その保育園を利用する保護者の方達が活用するという所と、またそういった保育にかかる方達も指針というものを見て、どういう保育が小金井市の中で行われているのかを、それに対する自分の関わりを考えていくですとか、そういう活用のされ方が中心になるのではないかというふうに想像しています。その場合、理念として上がるのが、保育園の先生方や利用している保護者の方々、同じこの地域で子育てをしている親御さんたちが、これは自分達の保育の理念だと、手の届く中身というんですかね、そういう物である方がいいのかなと思うんです。で、今言っていた、例えば保護者を取り巻く社会環境ですとか、病児保育ですとか、制度的な、労働環境やシステムというところについては、もちろん保育の背景にあることとしてとても重要なのですが、理念に入ってくる場合、その理念に対してじゃあどういう方針をもってどう保育をしていくかというところがなかなか、日々の保育の中では実感しにくいとか、現実化しにくいものになりはしないかな、ということがちょっと気になってまして、だから今回この指針を作っていく過程で、こんなところが議論されたというところがとても重要なので、ここはもちろん残しておきつつ、理念として何を選んでいくかというところに、また議論をしていければいいのかなと思いました。

- 米原委員長 ありがとうございます。皆さんも福元委員の話聞いてうなずかれていたと思います。子どもと捉えると本当に色々なことが関係してくるし、色々なことを大事にしていけないといけないということがありますが、どうでしょう、保育の内容面ですかね、どのような保育をしていく、子育て支援という言葉も出ましたが、その子どもの育ちをどう支えるかという視点で、ある程度まとめていくとすね、キーワードを選びすぐっていくという方向に進めたいと思います。
- 長澤委員 やはりさっきの公立園の、3ページに書かれている保育の最初の文章みたいなものがものすごく理想的にははまるような気がしていて、ホワイトボードにも書かれています、生きていく力を育てていくとか、そういう事が理念になっていて、先ほどもおっしゃったみたいに、制度とかシステムというのはどんどん変わっていくので、そこが変わってしまうと全てが変わってしまうようなものでは、理念としてはぶれてしまうので、本当にここに書いている、どんな場面でも子どもの気持ちに寄り添い深く共感しながら支援を行う、ということも、先ほど公立園での保護者支援プロジェクトだったり地域支援プロジェクトみたいな事をしていくというふうにおっしゃっていたので、やはり保育園の役割として地域を支援する、保育者を支援するというのも一つの役割だと思うので、そこは具体的なプロジェクトをしているというところに落とし込めると思うのですが、理念としては子どもの気持ちに寄り添ったり保護者に寄り添ったりしていく保育とか、そういう事になっていくのかなと思います。
- 茂森委員 公立保育園の園長先生に質問なのですが、こちらの内容というのは、保育補助の無資格の方も読まれるんでしょうか？全員が読む？やっぱりこんな素晴らしいものがあったら、これだけのものを守っていけば完璧な保育が出来ると思うのですが、多分保育に関わっていない方がこれを読むと、何のことか分からないと思うんですよね。保護者と保育に関わらない方、これから働こうと思う方に分かり易く説明するのが大事だと思いますね。
- 真木委員 内容が幅広くなっちゃって、委員長もう少し絞って、この問題点をズバっといけるといいなと思っています。ただこう広くなっちゃってる感じがして。
- 米原委員長 はい、ですので、保育の中身ですね、子どもの育ちに関わるものというのをピックアップしていくという方向で進められればというふうに思います。それを支える理念、大事にしたいこと、大切にしてほしいこと、というので、これはやっぱり大事だよ、とか、この繋がりが大事だよ、ということ、例えばですね、子ども中心として、保育者・保護者・地域が子どもの育ちを支えるという点は、深く同意をいただいていると思うのですが、さらにワードとしては生きていく力とか生きる力という、子どもの人生、子どもが主体的に生きるということをお大事にするという事も何度も出てきてる大事なところ。それを実際の文章というか大事にしたいことを、目指すもの、大切にしたいことという事に落とし込んでいく作業に関しては、今日できることならばある程度形にはしたいと思うのですが、それをじゃあこれでよろしいですね、という形までにはなかなか出来ないのかなというふうに思います。とにかくまずは、今また幅広くご意見をいただいて

おりますので、今真木委員がおっしゃったように、やっぱりこれ大事にしたいんだよね、と各委員のご意見を出していただく事がよろしいのかなと思います。これトップダウンで何かを決めるようなものではないですね、と思います。私も一委員としては、皆で大事にしていきたい、その皆というのは、園同士ですね、保育園の内容見せ合うとか、もちろん園の中の保育者同士見せ合うことにより、子どもにとって良い保育は何かと考える、きっかけというか基盤になるものを作っているというふうに感じています。それは公立保育園の5園ではお互いやってらっしゃるというお話なんだと思うし、保護者も交えてみんなで共有できていく事こそが、全体の質の向上に繋がるんだろうなと一委員として考えています。これの使い方なんですけどね。これは個人的な意見です。理念・方針で。

○飯塚委員　　ちょっとやはり話が幅広くなり私も混乱していますが、なんとなくだいたいのイメージとしては、まず子どもの最善の利益を様々な人が支えていく、プラス具体的な保育の内容、主体性を大事にして生きる力を伸ばしていくような保育の内容について述べたい。というようなイメージでいいのでしょうか？今、議論としては。

○米原委員長　　そうですね、それに加えてもう少しこの、自然についても上がりましたよね。小金井の特色として沢山挙げられているし、それは子どもの育ちにとっても大事なものだということで、ワードとしてはきちんと入れたい、というようなご意見もあったかと思います。

で、これは一つ提案なのですが、次回までにそういったこのワードを繋いで、目指すもの・大事にしたいことの案というものを、文章にした案というものを outs させていただくので、仮で結構ですので、これまた具体的な内容を話して進めていくとやはりこれも大事だったと出てくるかもしれませんが、仮の案というのは outs させていただいて、それを共有した上でその先の作業を進められればと思うのですが、そういった進め方がいいかでしょう？そのためにも、こちらに出ているものに関して、もう少しここは再確認しておきたいという各委員のご意見をいただけると、ありがたいです。

○八下田委員　　今委員長が、小金井の目指すもの・大切にしたいことの文章を作る、とおっしゃったのですが、先ほど長澤さんや福元さんが理念があってその下にですよ、という確認があったと思うのですが、そういう基本の物があって、ここに文章というイメージなのが、何が最終的に出てくるのか、私もイメージ的に掴めないのですが。

○米原委員長　　私のイメージは、「目指すもの・大切にしたいこと」というのが理念的なものです。ここの私のイメージ。

○八下田委員　　何段落かに分けて作られるようなイメージですか？

○米原委員長　　多分長い文章ではなくて、キーワードを繋げていく。理念があまり文章的に長くなるというようなもの、というふうには私はイメージしていませんが。それに関してはどうでしょう。例えば八下田さんは？

○八下田委員　　どんなイメージでどこを話しているのかなと思ったんです。長澤委員がおっし

やったように理念はやはり変わらない方がいいし、小金井で今まで作られてきた子どもの権利に関する条例とか、この3ページの上の段落の部分とかを使って理念を一文か二文で作って、それに対して、どういうタイトルか分からないですが、前文があるのか方針があるのか、なんか段階がないと、まずここがあって、いきなりダダダダと文章が始まっちゃうものだと、何についてどう説明したいんだろうと分かりづらいというか、長澤委員が多分最初の方の回から、どういう仕組みにするんですか、とか階層にするんですか、とかおっしゃったので、そういう事なのかなとか、というそういう事ですよ。委員長の考えていらっしゃるイメージがどうなのか分からないです。

○米原委員長 一委員としては先ほどお伝えしたように、今こう…

○八下田委員 理念という言葉は使わない、ということですよ？「目指すもの・大切にしたいこと」とは、という事で、ということなんですよ？

○米原委員長 はい、それが理念的なものとして、というイメージでいます。ただ、委員の皆さんの、多分その、それが理念だとかなんとかという名前ではなく、理念的なものがないと、その先に進めないというのは共有できているというふうに私は感じているのですけれども。

○保育政策担当課長 事務局の方で冒頭ご説明をしたところなのですが、他市で言われている自治体としての保育理念に相当するものをまず決めていただきたいという意図でありました。ただ保育理念という言葉ではなく、小金井の場合は、「小金井の保育の目指すもの、大切にしたいこと」という単語で考えていきたいということでお話をさせていただいています。具体的にどういうイメージかという部分ですと、例えば、世田谷のガイドラインで見ただけであれば、一つ例としたらですが、1ページ目のところに、世田谷区の保育の理念ということで、三つ掲げていらっしゃいます。小金井の場合、このような形で、今回の一番上にくるものが、三つの項目になる場合も考えられるでしょうし、一つの短い文章なりスローガンのものになっていって、その下に三本くらい補足するような形で柱が出てくるという考え方もあるかなというふうに思っています。事務局としてはそこまで細かい部分までまだイメージというか、決めているものではありませんが、そういうところも含めて、皆さんの中でまずは理念としてどうするかとまとめていただければと考えています。

○井戸下委員 私のイメージだと今ここに出ているんですが、それがそのまま文章になればイメージとして分かりやすいのかなと思っていて、本当に子どもが中心にあります、その周りに保護者と保育者がそれを支えています、それを更に小金井の豊かな環境がその子どもの育ちを支えます、みたいな文章が、例えばですけど、そういう感じだと、文章を読んでなんとなくそういうイメージが、図で書いてもいいかと思いますが、イメージが出来るかなという感じはします。それが理念になるといいかなと思います。

○真木委員 時間が押してきているのですが、先ほど福元先生がかなり細かく分析してお話して下さったんですね。そういう各委員が話していることがちょっと切れちゃっ

て曖昧になっちゃう部分があるので、委員長、その部分をすくい上げてしっかりまとめてほしいなと思います。

○米原委員長 すみません、それは今というご提案でしょうか？

○真木委員 はい。それでホワイトボードに書かれた文言も理念の中に入るんじゃないかって井戸下さんがおっしゃったように、そう思うんですね。それで図を描いて見える化をしていますよね。その見える化で市民とか地域とか環境とかもう少し皆で見える化して確立させて、そこから文言を拾っていったらいいと思うんですね。曖昧なまま曖昧に進むから…ごめんなさい、言い過ぎたかしら。

○米原委員長 曖昧なのでそこを今、例えば真木さんならどこを大切にしたいのか、ということをおっしゃっていただきながら、はっきりさせていく…。

○真木委員 皆、意見をそれぞれがもう言っていると思うので、これをしっかりまとめていくっていう感じでやっていただけると、非常に助かるのですが。

○米原委員長 ありがとうございます。その時間の事もございまして、まとめる作業で、案というものを提示させていただく。今後はもちろん案の確認等々もそうなのですが、それを細部まで詰めていく作業というのは、いくら時間があっても足りないかもしれないし、そこで決まって進められるかもしれませんが、その案をまずまとめさせていただいて、次回以降提示する。それでその次の段階に進められると思ったら進めさせていただきたい、というご提案です。それでその各委員から出していただいたご意見で、今はっきりしていなかった事がここで改めて共有できたのかなと思います。更にもちろん確認が必要でしたら積極的なご意見を出していただければと思います。

○保育政策担当課長 今委員長から言っていたのですが、だいぶ情報を集めさせていただいたところではありますが、やはりちょっとこれ以上口頭の中で皆さんとお話をしているだけでも、文章として形を作っていくのは、共有するのが難しいのかなと事務局も感じておりますので、今日のお話の趣旨も踏まえて、私どもの方で資料としてまとめさせていただいて、次回それを、委員長にも言っていただきましたが、ご議論いただくということで、事務局の方も考えたいと思っておりますので、進行の方も含めてよろしくお願い致します。

○米原委員長 一定程度共有はできていると思うので、資料というよりは提案するかの個々のエッセンスをきちんと抜き出した物としての提案までできればというふうには考えます。そう、原案ですね。

○長汐副委員長 それでいいのかなどうか。

○米原委員長 はい、それでよろしいでしょうか？

○吉岡委員 確認なのですが、ホワイトボードに今日載っている図を含めて、前回まで色々、先ほどお話が出ていましたが、これはピラミッド型ですよ。でもこの部分の方針をいただけたらと思っております。今日出た意見、あとここに載っていること、それぞれの資料が出てくるという理解でよろしいのでしょうか。それとも文章になっちゃうということなののでしょうか。

○保育政策担当課長 今こちらの方で具体的にどういう文章で、というところまではやはり改め

て、こちらのほうでも正・副委員長とご相談していくことになると思うのですが、イメージとしてはこの丸を中心とした図もあり、且つ文章としての物もありというような形のまとまった物をご提示して、そこを共有しつつ、また引き続き皆さんの中で、足りない言葉があるとか、そういう部分について確認を含めて、次回進めていただければというふうに事務局としては考えております。

○米原委員長　それでは、この議題については次回資料としてまとめていくこと、それからその資料をもとにどういった事が言えるのかということまで踏み込めればご提案をする、ということよろしいでしょうか？はい、ありがとうございます。
次に、議題その他についてです。

まず、委員の皆様から何かございますか？今吉岡委員からも確認いただきましたけれども、次回の会議に向けての資料の確認ですとか、ご依頼等はございますでしょうか？

○長汐副委員長　新たな資料ではないのですが、このホワイトボードに書いた中身もですが、前回時間をかけてせっかく皆さんでグループワークの中で出したじゃないですか。それをまとめた物もあるので、これも大事にさせていただいて、複数になるのか、あるいは加味して一本になるのか分かりませんが、やはり使っていただかないと、せっかく皆さんで知恵を絞って出した物が無駄になってしまうので、その辺お願いしたいなと思います。

○真木委員　一つ質問です。委員の人の中で色々と理念を考えてほしいという話がありましたよね。かたや事務局で文言考えるので修正して下さい。どっちなんだろうと思って。

○米原委員長　本日の議題に関しましては、市の保育理念のような物としての一定の方向性をこの回で作っていただくということで、この時間をいただいております。皆さんから意見を出していただきました。ですので、意見をいただいているものを基に、資料ですとか、案をまとめるというので、事務局が新しい物を何か作るという事ではないというふうにと理解しております。

○保育政策担当課長　すみません、私の発言がかえって誤解があったようなのですが、今日皆様方の方で出していただいたご意見、こちらの方に書かせていただいた内容について、まとめる作業をこちらでやらせていただく、という事で、こちらが何か新しいものを作るとか新しい意見を出す、という事ではございませんので、そういったものを次回正・副委員長ともご相談しながらまとめて出していきたいという形になります。

○八下田委員　その他で、次回の資料のお話で、小金井子育て子育て支援ネットワーク協議会というのがあって、そちらで2012年に小金井の子育て子育てパートナーシップ宣言というのを作って、2012年に採択されているというお話があったので、小金井の協議会でそういう子育てについての何か文言が出ているらしいので、私も勉強中なのですが参考資料として小金井にはこんなものがあるよというのを委員の皆さんと一緒に勉強したいなと思って、次回の事前配布の資料に入れていただけたらなと思ってご紹介させていただきました。

○米原委員長　ありがとうございます。これまでの小金井のというものとして知っておくべきという事だと思います。では資料に入れていただくということでお願い致します。

他はいかがでしょうか？

よろしければ次回の日程について事務局からお願い致します。

○保育政策担当課長　次回は7/31（水）同じく午後7時から、こちらの801会議室で開催致しますのでよろしくお願い致します。

○米原委員長　それでは以上で本日の会議を終了といたします。

どうもありがとうございました、次回もよろしくお願いいたします。